

令和5年度
第1回 筑後市総合教育会議録

令和6年2月5日

令和5年度 第1回 筑後市総合教育会議録

| | |
|---------------------------|---|
| 日 時 | 令和6年2月5日（月） 15時30分～16時30分 |
| 場 所 | 筑後市役所 東庁舎3階 302会議室 |
| 参 加 者 | 西田市長、中村教育長、齋藤教育委員、吉田教育委員、江崎教育委員、 下川教育委員、坂本教育部長、森田総務部長、堤学校教育課長、 永松社会教育課長、山口教育総務課長、豊福企画調整課長、 井手教育総務課総務担当係長、山元企画調整課長補佐、伊東主事 |
| 報 告 事 項 | ①昨年の協議内容に関する進展状況について（部活動地域移行） ②ルリーロ福岡との連携事業について |
| 協 議 事 項 及 び 決 定 事 項 | ○こどもの未来応援宣言（案）について ・宣言案及び宣言方法について、子どもたちがどのような形で宣言する のか、それに対して市はどのような対応をするのか、事務局で修正し、70 周年記念式典前までに改めて、総合教育会議において協議すること。 |

森田部長

ただいまより令和5年度筑後市総合教育会議を開催する。まずは、西田市長よりご挨拶をお願いします。

市長挨拶

本日は、お忙しい中、筑後市総合教育会議にお集まりいただいたことに、また、日頃から筑後市の教育行政のためにご尽力いただいていることに、心から感謝申し上げます。

併せて、昨年度は、令和5年度から8年度までの本市の教育・子育てに関する施策の目標・方針となる第3次筑後市教育大綱の策定にもご尽力いただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、本日の会議では、昨年度議題とした、部活動の地域移行の進捗の報告や1月18日にルリー口福岡と締結しました協定に関する報告、それから来年度の筑後市制施行70周年記念事業に関連して、「こどもの未来応援宣言案について」が議題である。

総合教育会議の目的である、市長部局と教育委員会が、様々な課題に対応するための教育施策の方向性を共有し、一致して執行にあたれるように、忌憚のないご意見をいただくことをお願いして、あいさつに代えさせていただく。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

森田部長

それでは次第に沿って進めていく。報告事項は2点である。まずは、「部活動の地域移行について」堤学校教育課長より報告をお願いします。

堤学校教育課長

これまでの総合教育会議にてご協議いただいた内容に対して、市の取り組みの進展状況として、部活動の地域移行についてご報告をさせていただきます。資料は別冊1「部活動改革（部活動指導員の導入）について」をご覧ください。

1～3ページまでは国が示している部活動改革の概要等である。これまでも紹介してきたところだが、今回の取り組みの前提となるため、改めて簡単に触れておきたい。

1ページには、部活動の意義と課題として、部活動が子どもたちの人間形成の機会あるいは多様な生徒が活躍できる場であることに触れつつ、一方で部活動顧問など教員の長時間勤務の要因になっていること、あるいは、指導経験のない教員が担当をせざるを得ないような場面では、教員に過度な負担がかかること、そして生徒にとっては望ましい指導が受けられないことなどの課題が挙げられている。

こうした課題の解決のために、国は具体的な方策として2点挙げている。1点目は、「休日の部活動の段階的な地域移行」2点目は、「合理的で効率的な部活動の推進」である。

2ページには、国が掲げる部活動の地域移行により、現在の学校部活動の姿を大きく変えていく将来像が示されている。現在の「学校部活動」が「学校部活動の地域連携」へと移行し、最終的には「休日の地域クラブ活動」へ移行すると示されており、学校教

育の一環として行っている現在の学校部活動を、少子化の中でも持続可能な体制とするために、学校の枠を超えた体制づくりが求められている。資料に示されている「休日の地域クラブ活動」のように移行することで、学校と連携して行う地域クラブ活動という位置付けではあるが、社会教育、スポーツ・文化芸術の範疇となる。また、移行に伴う変更点としては、個々の活動の中で保護者の負担や保険加入の必要性などが生じてくる。

「休日の地域クラブ活動のあり方」については詳細が3ページに図示されている。①のパターンは、地方公共団体（筑後市）が運営団体の場合、②のパターンは、多様な組織・団体（総合型地域スポーツクラブや演劇クラブなど独自の団体組織）が運営団体となり、各中学校と連携をして進める場合の図がそれぞれ示されているが、この体制をとるには、受け皿となる各団体と協議、あるいは新たに組織化する必要がある。そのため、当面の間は、学校部活動の地域連携として、各中学校の部活動に地域人材の部活動指導員を配置するという形を取り、地域移行の取り組みを始めたところである。

4ページには、筑後市における部活動改革に向けた組織を記載している。部活動地域移行検討委員会については、令和4年度に立ち上げた。この委員会で検討し定めた「筑後市部活動地域移行計画」については5ページに示している。

令和4年度から令和6・7年度までの計画を定めているが、このうち令和5年度については、部活動指導員の配置に向けて、4月以降業務内容の確認や、筑後市のスポーツ協会や文化連盟を通じて各団体へ指導者の推薦をお願いしてきた。この結果、9月より各中学校へ部活動指導員の配置を行った。詳細は6ページに示している。

羽犬塚中学校・筑後北中学校が2部活、筑後中学校が3部活でそれぞれ指導員を配置している。このうち学校から要望のあったソフトテニス等は、市内の関係団体での対応ができなかった。こうした点への対応については、次年度以降の課題として取り組んでいきたい。

また部活動指導員との協議については、4ページ下段に示している「部活動指導員連絡会議」にて行っている。今年度は8月に9月の部活動指導員の配置スタートに向けた会議を1度開催しており、2月末には、今年度の総括を行うための連絡会議を開き、部活動の外部指導員のあり方について、課題等の整理をしながら次年度に繋げていきたいと思っている。以上報告である。

森田部長

それでは、ただいまの報告についてご意見、ご質問等があればお願いしたい。

中村教育長

補足だが、資料6ページに部活動指導員一覧を示しているが、指導員不足が課題となっており、引き続き課題に対応していく必要がある。現在、久留米大学と連絡を取り合い、学生の指導員を探しているが、指導できる人はすでに始めており、すぐに指導員を見つけることはできなかった。今後、年度が替わり、教職員の配置が変わると、求める指導員も変わるため、引き続き連絡を取り合う。1人でも指導員を担ってくれる人材が

見つかるとうれしい。

吉田委員

指導員への謝金、保険、引率等はこれから検討していく予定か。

堤学校教育課長

今年度9月から部活動地域移行を開始するに当たり、謝金等についてはすでにお支払いをしている。会計年度任用職員として雇用しており、勤務に応じた報酬を支払っている状況である。引率等については、休日に对外試合等で参加をしていただくのが前提ではあるが、時間等の制限もあり、遠くで開催される大会に何度も行けるような状況ではない。そういった部分を今後整理していく。また、今月2月末には各指導員から問題点等の聞き取りを行い、うまく運用できるような形で整備をする必要があると考えている。保険については市の方で加入する。

森田部長

それでは、次に「ルリー口福岡との連携事業について」事務局より報告をお願いする。

事務局（伊東）

1月18日に包括連携協定を締結したルリー口福岡は、うきは市を拠点とする地域密着型のラグビーチームであり、今後、教育分野においても様々な取り組みを連携して実施できればと考えており、報告させていただく。

連携協定締結に至った経過としては、ルリー口福岡から連絡をもらったのが最初のきっかけである。そこで、うきは市だけではなく県南地域で一体となって連携協定を締結し、地域活性化していきたいという話をいただき、ルリー口福岡とホームエリアに関する協定を締結するに至った。

特徴としては、筑後市が県内5番目の締結先となり、既にうきは市、朝倉市、大刀洗町、大川市と連携協定を締結している。

協定の目的としては、総合計画で定めている筑後市が目指す将来像、並びにルリー口福岡の基本理念、これらを実現することを目的としている。

また、目的に沿った形で6つの協力事項を定めており、特に教育分野である協力事項4つ目「子ども・子育て支援・青少年育成に関すること」を軸とし、市民との交流を図っていきたいと考えている。

補足になるが、ルリー口福岡は現在トップキュウシュウリーグでプレーしているが、来季からラグビーの国内最高峰リーグであるリーグワン（3部）に参入することが、先月末に正式に決定した。発足2年目ながらトップキュウシュウリーグで2年連続リーグ優勝しており、来季からリーグワンに参入するなど、勢いがあり、各方面から注目を浴びているチームとなる。

今後の事業展開については、教育大綱の基本方針3「社会を生き抜く力を育む学校教育の推進」、基本方針4「スポーツと文化芸術を通じた健康で心豊かなまち作りの推進」、基本方針6「人生100年・人口減少時代を見据えた生涯学習の推進」、この部分につ

いて、ルリー口福岡との事業を進めていく中で推進を図っていきたいと思っている。

そして、今後実際に取り組んでいく事業案として、企画調整課の事務局案ではあるが、「学校教育分野」と「社会教育分野」の二つの柱で、考えた事業案を記載している。例として、「学校教育分野」については、「ALT 英語教育」など、外国に起源を持つ選手も数名在籍しており、ALT 講師として英語教育を行うことや、「職業人講話」など、学生にとってプロスポーツ選手は憧れの存在になるため、これまでの経験や苦労、夢の実現に向けて取り組む大切さについて、子供たちに本音で熱く語ってもらうことなどを記載している。

最後に「社会教育分野」については、既に今年度ちっごまつりにおいて鬼ごっこの鬼役として参加をしていただいております、今年 3 月 10 日にはちっごマラソンにゲスト出演していただくことが決まっています。その他、2 月 2 日には筑後保育所にて豆まき、ラグビー体験会を実施した。

今後、来年度実施していく事業として担当課の方で検討していただきたい。以上報告である。

森田部長

それでは、ただいまの報告についてご質問、ご意見等があればお願いをしたい。

江崎委員

ルリー口福岡には筑後市で働いている選手もいるのか。

事務局（伊東）

1 名筑後市で働いている選手がおり、1 月 18 日の協定締結式の際にお越しいただいた。

吉田委員

ALT の英語教育について記載があるが、了承されているのか。

山元企画調整課長補佐

了承されているものではなく、あくまで事務局の案である。今後教育委員会等と協議させていただきたいと考えている。

齋藤委員

筑後保育所に通う園児の保護者から、豆まき、ラグビー体験会の話聞いていた。プロ選手というのは子どもたちにとっても影響力があり、こういった取り組みを通して子どもたちの夢が広がる。良い取り組みだと感じた。

森田部長

それでは、報告事項についてはこれで終了とし、協議事項に移る。協議事項の進行、まとめについては西田市長にお願いしたい。

西田市長

では、「こどもの未来応援宣言（案）について」の協議に入る。この議題について、事務局より説明をお願いします。

山元企画調整課長補佐

前段として、来年度実施する筑後市政 70 周年記念事業について説明をさせていただきます。

別紙 2 に、筑後市制 70 周年事業関係で現時点で決定している内容について記載している。ロゴについては、職員から募集したデザインとなり、市章のデザインをモチーフに、7 は「ち」を、0 は「く」「こ」を、光は「こ」の濁音を表している。キャッチフレーズについては、「70 年を思い 躍動する未来へ」となっており、このキャッチフレーズを踏まえて、「子ども、未来志向」をテーマとした事業を来年度実施していきたいと考えている。

記念式典については、10 月 19 日にサザンクス筑後で開催を予定している。

式典 1 部については、後ほど具体的にご意見を伺いたいと思うが、筑後市こどもの未来応援宣言や、子ども未来基金の発表、子ども絵画コンクール表彰、70 周年記念表彰（未来奨励表彰）などを予定している。

式典 2 部については、「こどものための演劇広場」や、九州大谷短期大学の生徒が行う演劇を鑑賞するという内容で検討している。

この他、別紙 2 裏面にメイン事業について記載しているが、筑後市政 60 周年の際にも実施した NHK 公開番組の招致や宝くじ助成事業などスケールの大きな事業も進めている。また、現在庁内の内部会議で協議を重ねながら、様々なイベントを来年度実施に向けて議論を進めている状況である。

以上が 70 周年事業の概要の説明となるが、この 70 周年の事業の一つとして、今回ご議論いただく「筑後市こどもの未来応援宣言」がある。この内容については、別紙 3 で説明させていただく。

別紙 3 に「筑後市こどもの未来応援宣言～夢・笑顔・絆～」と記載しているが、筑後市だけでなく国全体の課題として、出生数の低下や子どもの貧困問題など子どもに関する問題が昨今大きく取り上げられている。

こうした課題への対応として、筑後市としても、子どもたちの未来を応援し、次世代の社会を担っていく子どもたちが健やかに生まれ育つことができる環境を構築していくという姿勢を打ち出していく必要があると事務局として考えている。そのため、多くの市民が集まる 70 周年記念式典の際に宣言するという事業を企画した。

具体的な中身については、別紙 3 に記載のとおり、【子どもたちの夢を育みます】【子どもたちの笑顔を支えます】【子どもたちの絆づくりを応援します】という 3 つの宣言項目で構成しており、これらを通して、子どもたちの未来を筑後市として応援していくという趣旨の宣言案になっている。

そこで、本日は以下 2 点についてご議論いただきたい。1 点目が、この宣言案の内容について、2 点目が、この宣言をどのような形で市民の皆様へ発表するのかという宣言方法についてである。

宣言方法については、別紙2に2パターン案を記載しているが、1つ目は、3つの宣言項目を、市内3中学校の代表者に、式典の際に読み上げていただくというようなやり方、2つ目は、子どもたちに、私達の未来を応援するような政策を市の方で実施してほしいという要望を出していただき、それにお答えする形で、西田市長が宣言するなど、様々なやり方があると考えているため、ご意見をいただきたい。

ここまでがこどもの未来応援宣言の内容になるが、それに付随して別紙3の裏面に筑後市子ども未来基金条例案を記載している。この宣言を実現するために、様々な事業を今後検討して行くことになるため、その費用を確保するために市民や企業からの直接寄付やふるさと納税などを基にした筑後市子ども未来基金も合わせて、式典の際に創設をしたいと考えている。

最後に、別紙4だが、式典の中で70周年記念表彰として未来奨励表彰を行いたいと思っている。30歳未満で、社会教育、スポーツ・文化芸術分野で活躍されている方を表彰するという内容である。別紙4の7ページに、表彰基準案を示しているが、国県等が主催する九州大会以上の大会に複数回以上、上位入賞したものという基準もあるが、こういった方々を来年度、ぜひ教育委員会の内部からもご推薦いただいて、式典の方で表彰できればと考えており協力をお願いしたい。

説明としては以上である。それでは、筑後市子ども未来応援宣言案の内容、及び宣言方法について議論をお願いしたい。

西田市長

この議題について、ご質問、ご意見等はあるか。

下川委員

筑後市子ども未来応援宣言案は中学校の代表者を式典に招待して宣言してもらうという提案か。

山元企画調整課長補佐

1つの案としてはそうである。

下川委員

中学生が壇上で宣言するなら、中学生の立場に立った言葉がよいのでは。宣言案の文章を見ると、市の立場から書かれた文章になっている。

山元企画調整課長補佐

ご指摘いただいた内容については、内部でも同様の意見が出ている。宣言方法として、中学生が宣言することが決定すれば、中学生の立場に立った言葉に修正することになる。子どもから要望を出してもらい、宣言案はそのまま市長が式典で宣言する等方法はいくつかある。宣言方法に伴い、宣言案は修正していく。

中村教育長

未来応援宣言ではなく、未来宣言の方がよいのでは。「応援」となると市の立場からの宣言となるが、自ら子どもたちが宣言したほうが気合いが入る。市長がその宣言を受

け止めて、意見を述べる方がよいのではないだろうか。

西田市長

他の委員はどうか。

齋藤委員

筑後市こどもの未来応援宣言案を見たとき、子どもが宣言するものだと感じた。例えば、「夢」について、初めに子どもたちの言葉で宣言をしてもらい、それに対し市長が【子どもたちの夢を育みます】と宣言をするほうがよいのでは。

吉田委員

応援宣言の「応援」を取ると、この場合は、3つの項目（【子どもたちの夢を育みます】【子どもたちの笑顔を支えます】【子どもたちの絆づくりを応援します】）のうち、下2つは子どもの立場に立った言葉に変える必要があると感じた。

江崎委員

同じく、宣言の主体が子どもなら修正が必要だと思った。

西田市長

各委員からご意見をいただいた。今後、本日いただいたご意見をもとに、子どもたちがどのような形で宣言するのか、それに対して市はどのような対応をするのか、再度事務局で宣言案及び宣言方法を修正し、70周年記念式典前までに改めて、総合教育会議において協議させていただくということによいか。

全委員

改めて総合教育会議において協議するということが構わない。

西田市長

それでは、改めて、総合教育会議にて再度協議することとする。その他にご意見等はあるか。

江崎委員

宣言方法案の2番目について、「中学生から市に対してこどもの未来のための取組を求めてもらう。」と記載がある。先日、古島小学校の6年生の授業の中に「地域をどうつくりあげるか」という趣旨の授業があった。小学6年生が校区内を見て回り、ごみの写真を撮って回り、ごみのない地域にしようという内容を校区コミュニティ協議会において発表をしていた。宣言案において、中学生以外にも小学生が、こどもの未来のための取組を求めることができるように、可能であれば検討をお願いしたい。

西田市長

それでは、それについて事務局より意見はあるか。

山元企画調整課長補佐

いただいたご意見については、学校の協力が必要になってくるため、教育委員会、学校教育課と協議しながら、事務局の方で検討していく。

西田市長

それでは、その部分も含めて次回の総合教育会議で協議する。

その他ご意見等はないか。では、進行を事務局にお返りする。

森田部長

市長をはじめ構成員の皆様のおかげで活発な意見交換ができたことを感謝申し上げます。それでは、最後に事務局より連絡事項をお伝えする。

豊福企画調整課長

本日の議事録は、事務局で速やかに作成し、皆様方にご確認いただいたのち、市のホームページにて公開する。なお、今年度の総合教育会議については、緊急開催の場合を除き、本日の会議で終了とする。次年度の開催については、継続協議事項もあるため、例年より早い段階で、初夏を目安に開催させていただきたい。それについては、別途ご案内する。

森田部長

それでは以上をもって総合教育会議を閉会する。